

就労継続支援B型事業所 すずかけ

1 基本方針

地域で暮らす障がいのある方が、地域の中でいつまでも自立した日常生活を営むことができるよう、一人ひとりの障がいの状況に応じた生産活動の提供と個別支援を行うことで、利用者の労働意欲の高揚を図るとともに、より高い工賃が支給できるよう努める。

2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況										利用 延人員	定員に 対する 年間 平均 稼働率	年度 末利 用者 数	
			入所 人員	退所 人員	退所理由別							他				
					地域移行 GH	パート 等	家庭 復帰	施設 移管	死亡	就職	サ-ビス 変更					
継続B型	38	39	2	4	0	0	0	3	0	0	0	1	7,601	83.0%	37	
元年度	継続B型	38	40	2	3	0	0	0	1	0	0	0	2	7,762	86.2%	39

（2）障害支援区分

就労継続支援B型

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	6	1	5	1	7	2	0	22
女性	1	0	1	5	4	3	1	15
計	7	1	6	6	11	5	1	37

3 事業の実施状況

（1）商品開発、販路拡大等による収入増と工賃の向上

ア 印刷関連作業については、新規利用者1名がスモールステップではあるがPC操作と印刷補助に携わることができるまでになった。職員の業務の習熟度も年々高まり大口から個人のお客様まで注文が増え収入増に繋がった。

イ HACCPの考えを取り入れた衛生管理については、作業室の区域分けのビニールカーテンの設置、手洗い場の増設及び所内独自の手引き書の作成等を行い安心安全な商品の製造に努めた。

また、ドライフルーツの新商品の開発及び旧気高郡の4カ所の保育園並びに雑貨店に商品を納入し販路拡大に努めた。（株）ウイングとの契約締結によりドコモショッピングによる全国区へ展開できたことで、新たな販売路線に繋がった。

ウ 受託作業については利用者の特性に合わせた治具の改良を行い作業能率の向上に努めた。

エ 今年度、板わかめの価格を値上げし販売したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため県内外からの大口の取引がなくなり在庫を抱えるに至った。

また、イベント関係も全て中止となり、営業の機会が減ったため、法人内等で詰め合わせセット商品のセール販売を行い収入増につなげた。

来年度は板わかめの内容量と価格を見直していく。

受託作業も一時的に受注が減ることがあったが、徐々に増え年間を通じて継続的に受注があった。新規作業の開拓1件。

印刷関連についても大口の受注等もあり、平均工賃目標額13,000円に対し18,000円と目標工賃をさらにアップすることができた。

（2）障がい特性に合わせた支援と職能評価

ア 自閉症、行動障がい等の障がい特性に配慮し、落ち着いて働ける作業環境や分かりやすい手順書の整備に努めた。

イ 利用者の職能評価は3ヶ月毎に実施し、客観的な評価をして作業班の中で本人へフィードバックし作業意欲や能力の伸張に繋がるように働きかけた。

ウ 個別支援計画作成時、本人、保護者から要望を聞き取り、作業状況を確認し作業内容の見直しや本人の希望に即してステップアップできるように計画の見直しを行った。

(3) 地域に密着した農福連携と地産地消

ア 「道の駅西いなば気楽里」「とっとり市」「わったいな」「かわはら道の駅」「ごきげんマルシェ」で加工食品を販売した。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベント関係は全て中止となり、対面販売で商品をアピールすることはできなかった。

イ 大根については鳥取市内の農家さんと契約したことで安定した仕入れができた。

ドライフルーツ用の二十世紀梨が予定より多く売れ、在庫がなくなった為、冬季に赤梨の追加仕入れを行ったことで新たな生産者とのつながりができた。

新商品として、「きたろう柿」、「いず柿」を仕入れ、セミタイプのドライフルーツを試作し販売につなげた。

青谷町のいちご生産者から、いちごドライフルーツの依頼があったが検討中。

ウ 地元の食材を生かした切り干し大根は旧気高郡の4カ所の保育園と契約を締結したことや法人の厨房から注文も増えている。

「あかもく」についてはサンマート、トスク、法人内の厨房から順調に注文が入っている。

また、(株)コタニより乾燥あかもくについて鳥取市給食センターに使用してもらえるよう交渉していきたいとの商談を受け、サンプル、見積書を提出した。

(4) 利用者の安定確保

ア 利用者ニーズに応えるため、体験支援体制や作業提供体制を整え、利用や体験を前提とした見学の受け入れを行ったが、体験を通して本格利用になった方は1名であった。

相談支援事業所が来所した際には、新規利用者の受入が可能であることを伝えたが、その後新規の利用がなく、現在利用している利用者の日数を増やす等利用促進に努めたが目標を達成できなかった。

年々に高齢化が進み、介護が必要な方、65才以上の利用者も多く利用されていることから、今後は若年層の利用者の確保が課題である。

イ 新型コロナウイルスの対策を徹底し、白兔養護学校からの職場体験実習生を1名受け入れた。(10日間)今後も実習を受け入れ、卒業後の利用に繋げたい。

稼働率：目標88% 実績83%

(5) 地域福祉への貢献

ア 保健師及び相談支援センターの相談員からの紹介で3名の方が見学され、1名の方が利用となった。

イ 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため小中学校、地域自治会との交流は全て中止となり、障がい理解の啓発ができなかった。

ウ 勝谷公民館活動のコスモス植えに参加。コスモスの苗植えを行い地域の環境美化に協力した。

エ 地域における生活困窮者支援の充実を図るために他機関との連携や協働ができず、支援体制の構築に努めることができなかった。(就労体験場所の提供)

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取大学介護体験実習	8月	2人	10人
計		2人	10人

(2) ボランティアの受入実績

実績なし

5 就労支援事業の実績

作業班	2年度目標額	実績額	達成率	作業の内容
園芸作業班	528,000円	60,000円	11.4%	園芸作業の受託
清掃作業班	1,300,000円	1,287,401円	99.0%	公共庁舎等の清掃作業
部品組立班	1,265,000円	2,309,753円	182.6%	弱電機器部品の組立作業等
自主製品班	12,000,000円	12,304,056円	102.5%	海産物加工、印刷製品等作成販売
計	15,093,000円	16,501,210円	109.3%	